

樽 前 山

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

○火山活動評価

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。なお、山頂溶岩ドーム周辺では高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2020年7月～2021年6月の発表履歴

変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------	----------------------------

○2020年7月～2021年6月の活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1-①～⑥、図2～5）

監視カメラによる観測では、A火口、B噴気孔群、E火口及びH亀裂の噴気の高さは火口縁上概ね100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

2020年12月7日及び2021年1月25日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、山頂溶岩ドームの噴気の状況や融雪域の広がりについて特段の変化は認められませんでした。また、赤外熱映像装置による観測では、地表面温度分布の状況について特段の変化は認められませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-⑦～⑨、図6～9）

2021年3月9日に、山頂溶岩ドーム直下を震源とする地震が一時的に増加しましたが、期間全体として火山性地震は少なく、地震活動は概ね低調に経過しました。地震は山頂溶岩ドーム直下の標高1km～海面下1km付近及び山体西側と風不死岳付近の海面下約2～3kmで発生しました。

2021年3月18日に、山頂溶岩ドーム直下を震源とする継続時間が短く振幅の小さな微動が発生し、その直後に火山性地震が一時的に増加しました。

・地殻変動の状況（図10）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道、地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』を使用しています。

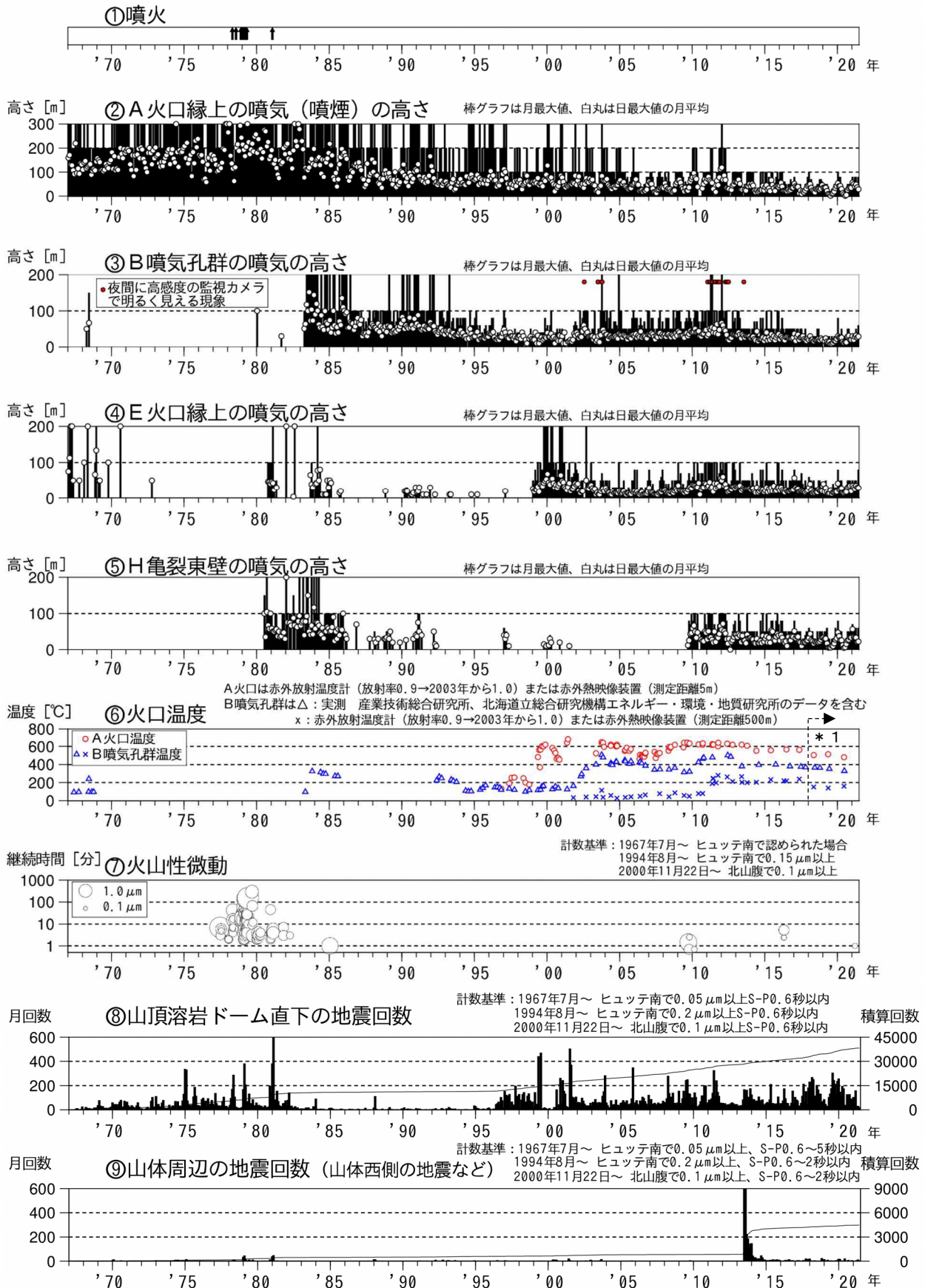


図1 樽前山 火山活動経過図(1967年1月～2021年6月)

2018年(*1)の機器更新以降では、以前と比較して温度が低く観測される場合があります。



図2 樽前山 南側から見た山頂部の状況（2021年5月14日、別々川監視カメラによる）

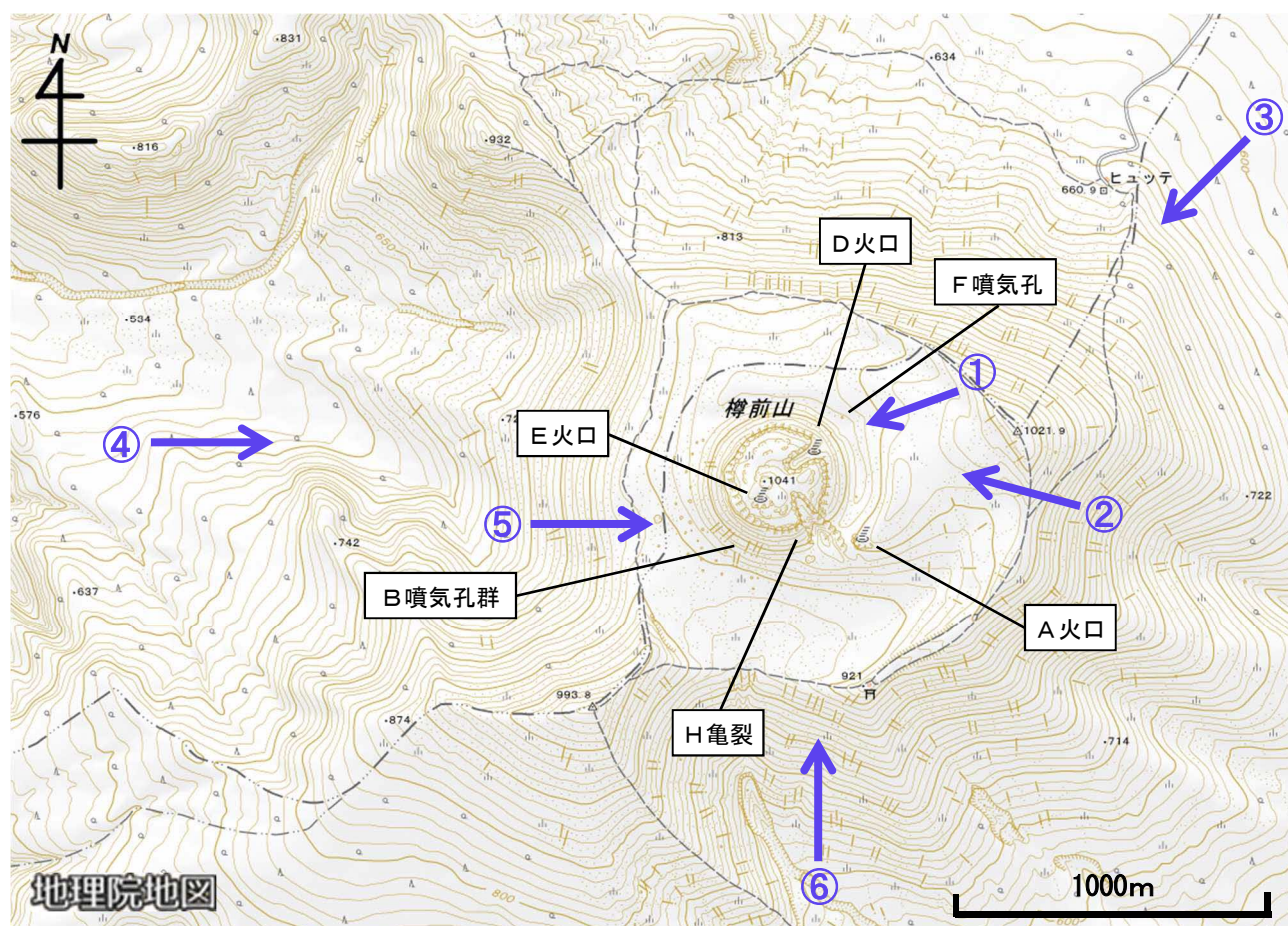


図3 樽前山 山頂溶岩ドーム周辺図と赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）

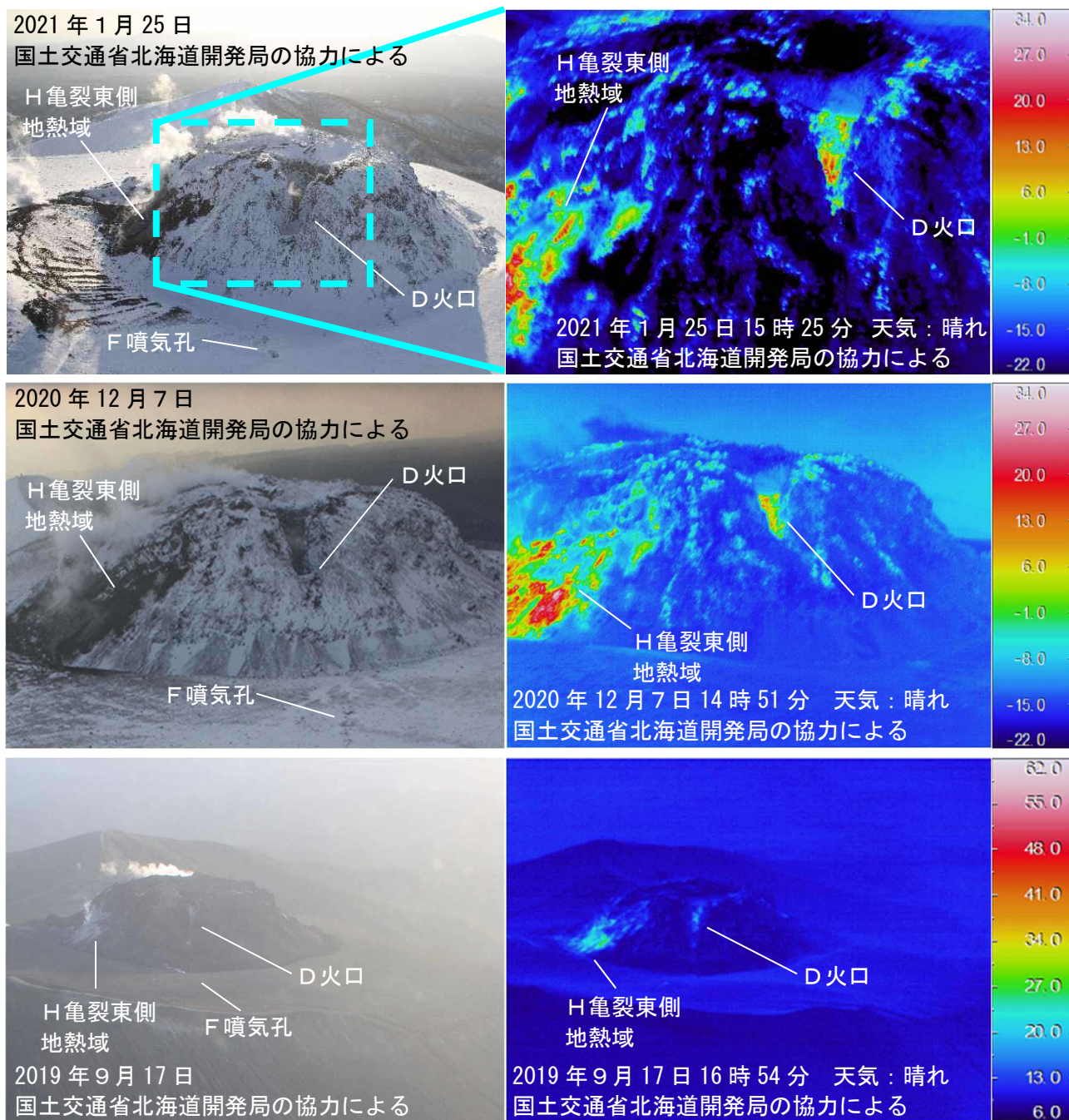


図 4 樽前山 赤外熱映像装置による山頂溶岩ドーム東側の地表面温度分布

上：2021 年 1 月 25 日 北東側上空（図 3 - ①）から撮影

中：2020 年 12 月 7 日 東側上空（図 3 - ②）から撮影

下：2019 年 9 月 17 日 北東側上空（図 3 - ③）から撮影

・2019 年 9 月と比べて、山頂溶岩ドーム東側の噴気や地表面温度分布の状況に特段の変化は認められませんでした。

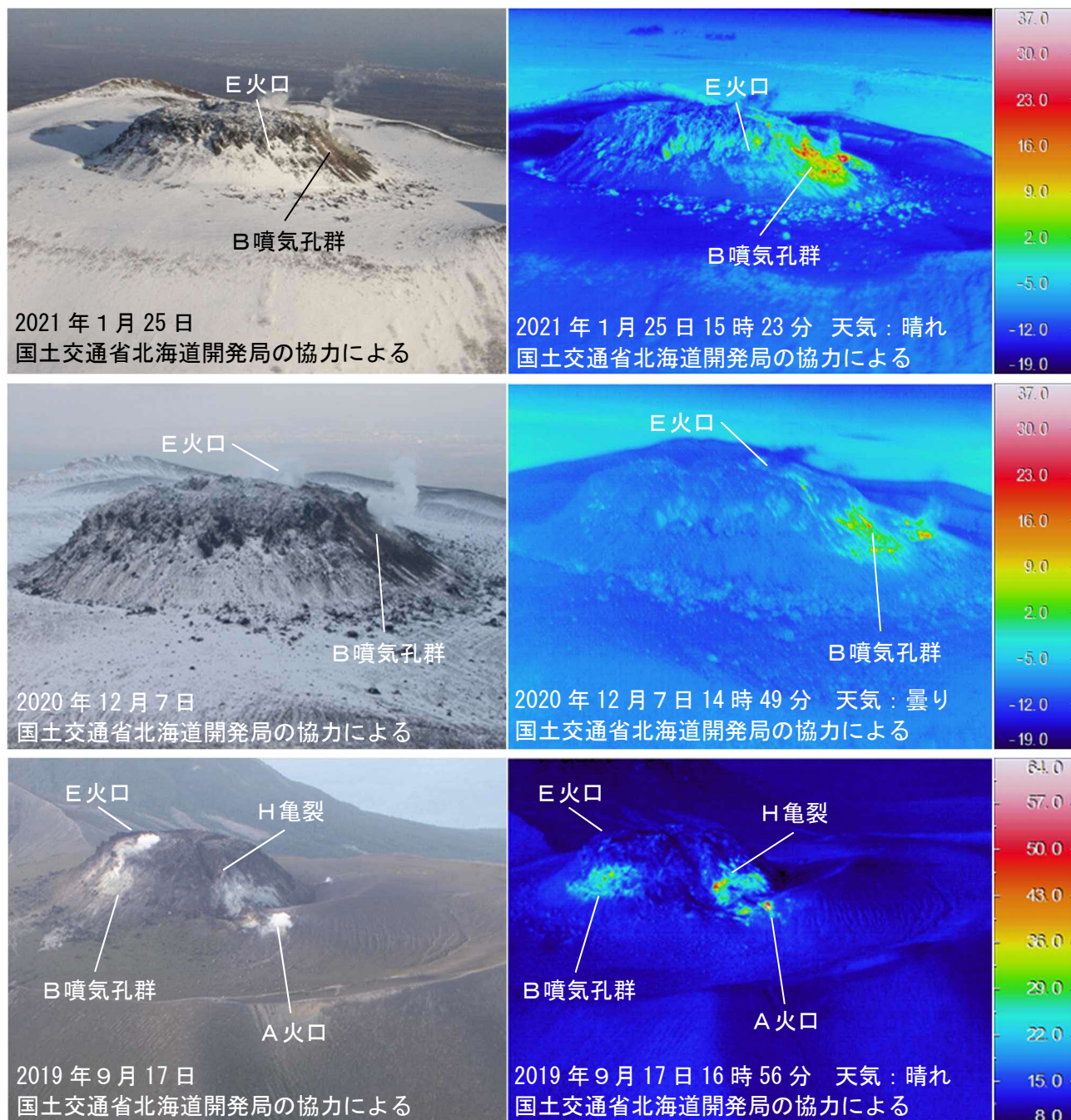


図5 樽前山 赤外熱映像装置による山頂溶岩ドーム西側及び南側の地表面温度分布

上：2021 年 1 月 25 日 西側上空（図3 - ④）から撮影

中：2020 年 12 月 7 日 西側上空（図3 - ⑤）から撮影

下：2019 年 9 月 17 日 南側上空（図3 - ⑥）から撮影

- ・2019 年 9 月と比べて、山頂溶岩ドーム西側及び南側の噴気や地表面温度分布の状況に特段の変化は認められませんでした。